

○司会

それでは、研修を再開します。

これから、梶矢文昭さんに被爆体験をお話しいただきます。

梶矢文昭さんは国民学校1年生、6歳のときに爆心地から1.8キロの地点で被爆をされました。

それでは、梶矢さん、お願いします。

○梶矢

梶矢文昭と申します。よろしく申し上げます。

私は、1939年、昭和14年に生まれております。1939年というのは、いわゆるナチス、ヒトラーがポーランドに侵攻して、第2次世界大戦が始まった年です。まだ、日本は大戦には参戦していませんでした。日本が太平洋戦争に加わったのは、私が2歳、昭和16年であります。1941年12月8日、いわゆる真珠湾攻撃によって日本もこの大戦に参戦する、2歳であります。

戦争は続きます。3年9か月続きます。私は6歳になりまして、4月、1年生に入学しました。学校は今のマツダスタジアムに一番近い学校です、荒神町小学校。マツダスタジアムのすぐそばにある学校で、家は広島駅よりもまだ西でした。だから、学校に通学する1年生の小さい子供が駅前を歩いて、猿猴橋を歩いて、荒神町を歩いて、今のマツダスタジアムまでを歩いて通学する。4月の入学当初はそうでした。まだ、空襲がそれほど激しくなかったんでしょう。もう5月、6月になったら、ほぼ毎日のように空襲が続きまして。

学校はどうしていたか、勉強している、サイレンが鳴る、ウーウーウーと鳴ります。いよいよ間近に迫ってきたら空襲警報、今度は断続的に、ウーウーウーと鳴ります。もう学校、当時はほとんどの学校が木造ですから、学校で子供を保護できません。だから、学校はその警報が鳴り、サイレンが鳴り出すと授業をストップして、一斉に子供をそれぞれの家に帰させます。走って帰ります。

広島の方は分かると思うんですが、マツダスタジアムのところから、タッタッタッタッ駆けつけて、駅前を歩いて、さらに大須賀町という自宅の防空壕まで帰る。怖かったです、いつ爆弾が落ちてくるか分からん。また解除になると、また学校に行くんですね。

戦争の終わり頃はそういう状況が続いていまして、学校も教育委員会、先生方も検討します。これは学校まで来させるのは無理だ。考えてると、広島駅よりもまだ反対側から駅前を歩いて、マツダスタジアムまで行って、警報が鳴っ

たら駆けって帰る。大変だ、というんで、つくり出したのが、分散授業所を先生方や市は考えます。分散するんです、授業所を。各町内ごとの空いた家、民家を借りたり、あるいはお寺を借りたりして、地域ごとに教室をつくる。これを分散授業所といいます。そこに通って、私たちは勉強していました。

字で書くとこんな字になります、分散した授業所。ほぼ市内の中心の学校は、この分散授業所形式を取っております。だから、本校までは来させずに、各町内ごとに教室を設けて、そこで勉強する。ウー、警報鳴ったら駆けって自分の家まで帰る。この形式を取っていました。

ただ、鉄筋の校舎が2校あった、当時市内には、いわゆる本川小学校と袋町小学校、この鉄筋の校舎の学校は木造の家に帰すよりも、学校に来させるほうがより安全、これはちょっと違った形式だが、そのほかの学校は木造ですから、分散授業所形式を取っております。

さて、話をする前に、言葉の説明をします。もらった難解語のリストの中に「ピカドン」が入ってました。ありやりやりやりや、今頃の学生たちには「ピカドン」が難しいか。当然、我々の世界には「ピカドン」は当たり前であります。いわゆる原子爆弾の様子を体験した人は、その体験からこの言葉を生み出しました。ピカッと光ってドンと来る「ピカドン」。このまま通用してもいいんじゃないか思うんですが、「ピカドン」。

それから、「疎開」というのがあります。疎開、これは小学校の、当時は国民学校。国民学校の3年、4年、5年、6年は、市内中心部におることができんかった。3年、4年、5年、6年は、周辺部のより安全なところに逃がす、これを疎開といいます。疎開には大体2つありまして、1つは「集団疎開」、学級ごと、学校でまとまって集団で疎開する集団疎開。もう一つは、「縁故疎開」。より安全な周辺部に親類がある場合には、そこに預かってもらう、縁故を頼りにした疎開、縁故疎開。それから事情があって残る者。

調べてみると、学校によって多少の違いがあるが、大体3分の1、3分の1、3分の1ぐらいです。集団疎開が3分の1ぐらい、縁故を頼って疎開するのがやっぱり3分の1ぐらい、それから残っている者が、事情があって残っている者が3分の1ぐらいです。調べてみるとこんな数字になります。

いや、ずっと勘違いしている部分がありまして、例えば、3日前ですか、テレビでテニアンという島のことをやりました。私もテニアン島に行ったことがあります。テニアン島の平和式典に招かれまして、そこに行ったこと、60周年記念ですから2005年ですか、行きました。そのときもテニアンの島民は、ほぼ全滅だと説明をされました。うわ、テニアンは皆、全滅だったのか。ところが3日前のテレビを見ると、何と住民、死者3,500、生き残り9,500いるんです

ね。ありやりにやりにや、たくさんの人が生き残つとるじゃないか。ただ、死に兵、兵隊はほぼ全滅です。最後は玉砕といって突っ込んでますから、兵隊はほぼ全滅。その話を聞いて、日本は全滅だったんかと思つたら、いやいや、一般住民は死者は3,500、いや、生存者が9,500。こんなのが本当3日前になって、ええ、そうだったのかと思つたりもしました。

「ピカドン」、それから話に出てくるかも分かりません、「青空教室」。私たちの行っていた学校は焼けました、教室がない。でも、先生方は何とか子供たちに勉強をというんでやったのが、運動場に出て、むしろの上に座り込んで勉強する。天井はない、青空、青空教室。私の学校も青空教室でした。そういう時期がありました。

それから言葉として出てくるのが、当時、爆撃機はB-29です。Bはボーイング（爆撃機（bomber）のB）。現在はボーイングの五十何号ぐらいになってますが、どんどん型が変わって行って、戦争末期には大型爆撃機、これはB-29、ボーイング社の29型になります。

それから、先ほど言ったテニアン島。テニアンも行くまでは分からなかった、どこにあるんだ。いわゆるエノラ・ゲイが飛び立った滑走路。当時、世界最大のB-29の基地だったテニアン島。どこにあるんだ、どんな島なんだ、地図帳開いても出とらん。でも、詳しく調べていくと、サイパン島、グアム島、その中間にある小さい島です。何でこの小さい島に世界最大の基地を造ったんだ。行ってみたら、なるほどと思つた。山がない、平地なんです。

グアムは行つとらんのだが、サイパンには行きましたが、非常に山があるから、B-29の滑走路を造るのが非常に難しい。ところが、テニアンは小さいけれども平坦。だから、戦争末期、世界最大の飛行場をこのテニアン島に造って、このテニアン島からエノラ・ゲイと名前がついたB-29が飛び立って行って、広島に原爆を落とす。同じように、そのテニアン島の飛行場を飛び立って行って、長崎に原爆を落とす。地形を見たら、なるほど、これはまるで海に浮かぶ飛行場だなという感じがしました。これがテニアン島であります。

あと、名前で「練兵場」というのをごく普通に使います。練兵場、いわゆる兵隊が訓練をする広場であります。広島には2か所ありました。1つは西練兵場。西練兵場、今のクレドや県庁や市民病院がある辺り一帯が練兵場でした。今は想像もつかんわね。もう一つの東練兵場が、私が逃げていったところですけども、広島駅の北側です。広島駅と二葉山という山の間の、今はビル街、ホテル街ですけども、当時は練兵場、広場、兵隊が訓練をする原っぱでありました。練兵場、東と西があった。

あと、一応、前に言つときますが、広島で死者は14万人と今は言われていま

す。ただし、これは1945年12月の終わりの時点で、8月6日、原爆で即何人死んだかは、これは調べようがない。ただ、1945年12月の終わりまでに、一応、今、公的な数字として14万人、プラスマイナス1万人、これが大事ですね。カウントできない死者が1万人以上いる。

例えば、私の姉も死んでおりますけれども、学校の歴史の中では、学校の記録の中では死者ゼロになつとる。いや、わしのお姉さん、死んどるんじゃがなと言つても、調べた時点でゼロとカウントしとるとというのがたくさんあると思う。だから、プラスマイナス1万人とついとる、14万人。

長崎が、これは今度はプラスマイナスじゃなくて、おおよそという数字をつけて、長崎はおおよそ7万人が通説になっております。今はこの数字でいろいろ話していくことになっていると思います。

それぐらいの言葉の問題と、もう一つ、話していきませんが、私は一生懸命逃げて、一生懸命避難した、最後にたどり着いた東練兵場に作家が2人いました。後で分かったんですが、1人は原 民喜（はらたみき）という、いわゆる「夏の花」の作家ですね。この原 民喜も逃げて、逃げて、逃げて、東練兵場で避難しております。近くにおったんか、と後で思いますけど。

もう一人は、やはり児童文学作家で、今西祐行（いまにしすけゆき）という人がおります。この今西祐行も東練兵場にいたことが後で分かりました。などを言っておいて、私の体験を話していきたいと思います。

この写真は、原爆投下の1年前、昭和19年のようです。昭和19年、原爆が落ちるのが昭和20年ですから、19年のときに兄弟が集まって撮った写真です。一番背が高いのが長男、兄貴、これは陸軍でした。2番目の兄貴、これは16歳です、16歳で予科練でした。だから、予科練だから死ぬるんじゃないか、特攻じゃないか、もう兄貴なんか言わせると、いや、もう飛行機がなかった、飛んでいこうにも飛行機がなかったと話しています、これは2番目の兄貴。

右側の女性、これが一番上の姉。その下が2番目の姉。当時9歳ですか、これが原爆で亡くなります。一番小さいのが私。写真では19年ですから、5歳です。原爆に遭ったときは6歳です。そのときの写真がないんです、いろいろ古い写真を見せてくれと言う人が来られるんですけども、いや、残つとるのはこの1枚ですって、いつもこれを見せておるような写真。当時の私の家族、父と母は写っていませんが、家族のうち兄弟の残っている写真になります。

昭和20年、兄貴は特別幹部候補生、特幹生。九州の特攻基地、大刀洗におりました。2番目の兄貴は、今度は予科練で横須賀にいたそうです。2人とも生きました、生き残りました、帰ってきました。母親が喜んだですね、泣いたです。うわっと泣いて、生きて帰ってきてくれてと、それを覚えています。でも、

こういう1枚の写真なので、話させてもらいます。

では、今のような言葉が出てきますが、私の被爆体験を話していきたいと思います。生まれたのは昭和14年、1939年、この年は、第2次世界大戦が始まった年です。1939年9月1日、ヒトラーはポーランドに侵攻して、第2次世界大戦が勃発しました、その年に生まれておるんです。そして2年後、太平洋戦争が勃発しました。そして、3年9か月後、昭和20年8月6日、これが原爆であります。同じ14年生まれでも、私は3月生まれでしたので、もう1年生でした。

この写真は、この平和（記念）公園です。何か75年たったら、信じられんような風景、写真が出てきます。これは、今の平和公園の戦前であります。中島町、最も繁華街でした。これが、当時の広島市街になりましようか。これが平和公園で、今、皆さんがおられるのはここら辺りになります。そして、私がいたのは半径1.8キロメートルの広島駅のすぐ近く、大須賀です。

これが、私が山の上に逃げたコースになります。何かこの地図で見ると、たったこれぐらいだったのかと思いますが、結構、一生懸命逃げました。

これが、今の広島駅の裏です、東練兵場の、だから76年前です。今はホテルとかビルとかで、もう山を見ることができんぐらいですが、東練兵場という、いわゆる兵隊が訓練をする広場が広島駅から二葉山まで原っぱで広がっていました。

この地図は日本です。硫黄島、これが原爆が落ちる日、昭和20年3月に全滅しております。そして沖縄が6月に全滅。エノラ・ゲイ、原爆を積み込んだ飛行機、あるいは長崎に落とす原爆が飛び立った飛行機は、このテニアンというサイパンとグアムとのほぼ中間にある比較的小さい島です。当然、初めは日本軍が占領してました。日本軍と島民がおりました。しかし1年前、19年7月にアメリカ軍が占拠して、話に聞くと、日本人がつるはしともっこで一生懸命造った飛行場、アメリカ軍が占領するとブルドーザーが入って、一気にがって2,000メートルの滑走路を4本造って、そこから、例えば東京、東京の空襲は300機来てます。呉で100機ぐらい。福山で150機ぐらいのB-29が飛んできてますが、いずれもこのテニアンという島の飛行基地を飛び立っています。

これはテニアンの飛行場になります。これがいわゆる、これはリトルボーイです。広島に投下された原子爆弾、リトルボーイ。長崎がファットマン、太っちょですね、ファットマン。広島は、何とリトルボーイという名前がついた原子爆弾が投下されています。長さは3メートルと言われてています。重さが4トン。

私はテニアンに行ったときに、あなたは被爆者ですか、特別にと行って、この穴の中に入れてもらいました。ここから七十数年前、詰め込まれて、広島に

運んで落とされたのか、ちょっと感慨に浸りました。

そのときの写真であります。いわゆるきのこ雲。これは原爆ドームです。周りは御覧のように焼け野が原です、瓦礫です。これが、今の広島のまちの風景になります。76年前ですか、こんな状況が実際にありました。

これも原爆後の広島を中心街の様子です。鉄筋だけが僅かに外壁を残しておりますけれども、木造を含め、ほとんど壊滅です、焼け野が原という状況になっております。

これ、ちょっと厳しい写真で、子供たちに見せるときには、先生方をお願いして、見たくない子供には無理して見る必要ないんだと言っといてくださいと言います。怖がる子供もおります。これは長崎の被爆者の写真です。西田さんという名前が残ってます。90歳過ぎまで、この状態で生きられます。人間の生命力とって、分からんなと思ったりもします。

これは原爆後の被災状況の様子です。これは、昭和28年につくられた映画「ひろしま」という映画の1シーンです。また被爆者がどんどんどん自由参加して、無料でこの映画の中に加わっておりますが、この川は、すぐそばの本川であり、こちら側の元安川であります。

だから、8月6日、当時中学、特に中学1年生が多いですが、中学1年、あるいは2年生が僅か、この平和公園辺りで作業をしようとした。「建物疎開」といって、延焼していくのを防ぐために、あらかじめ家を壊すという建物疎開の作業を七、八千人の中学1年生、あるいは2年生が集まって作業をしようとしたから、ほぼ全滅です。これは記録を見てもらうと、何々学校動員者500人、600人、全滅なんて書いてあります。そら、そうでしょう、爆心地付近の屋外で作業をしていて、ピカッ、ドーンでありますから、何とか生き残った者がこちら側の川、元安川、向こうの川、本川に逃げ込んでいったが、もう川面、一面が死体であったと言われております。私は見とらんからね。

その年、昭和20年末までの死者は、広島は14万人プラスマイナス1万人、これが大体公的な数字で言われています。長崎が、これはプラスマイナスをつけずに、およそという表現をしていますが、長崎がおよそ7万人。

そして爆心地、爆心地も正確に言うと、原爆ドームではない。原爆ドームからちょっと南東に150、200ぐらい離れた、島という病院の上空600メートルで炸裂したと言われております。島病院は今も残っていて、プレートを見ると、ここが爆心地ですと書いてあります。ただ、1万メートルの高さのB-29、エノラ・ゲイが狙った地点は相生橋です。相生橋がTの字になってます。だから高いところからも比較的目標地点になりやすかったんでしょう、相生橋を目掛けて落とします。200メートルぐらいずれて、島病院の上で炸裂しています。

古い本の中には、コミック、漫画なんかでも、原子爆弾に落下傘がついとる、昔はそう言われとった。原子爆弾に落下傘がついて落とされた。落下傘がついとったのは計測器です。風圧とか、そのほかを調べるための計測器をつけたものを、ほぼ同時に落としてる。その落下傘は当然、風の影響を受けて、ずっと流れて行って、この奥の可部というまちがあるんだが、可部というまちまで飛んで行って、そこに落ちとる。

原子爆弾は目標地点に向かって落とすんだから、そんなものがついたら目標地点に落とせん。だから相生橋、Tの字になつとるんですね、相生橋を目がけて落とします。相生橋はここですね、僅かにずれて、島という病院の上で、ただ、高さが600メートルと言われてますが、そこでドーン。だから範囲が非常に広がるわけです。もし地面に落ちて、地面炸裂だったら、それはそう広がりはないだろうが、600メートルの空中で熱線、爆風を出しますから、半径2キロメートルという壊滅状態が生まれています。

さらに、爆心地より半径2キロメートル以内はほぼ壊滅、炎上。そして、被害は熱線、ピカッですね。爆風、ドーンであります。それから放射線、放射能、これは後でみんな分かって、非常に怖がったんですが、放射能の影響がある。

もう一つ、あまり言われとらんのだが、風評被害がある。うわさ話。特に女性は非常に苦労なさった方が多いようだね。被爆者の女性とは結婚をするな、正常な子供が産めない、こういううわさがだっと広がる。だから、被爆者の女性の中には、被爆者である、被爆したことをずっと隠し続けた人が相当おります。私たちの仲間の中にも、そういう女性がおって、結婚はした、子供が産まれた。子供が風邪を引いた、熱を出した、周りからは原爆症じゃろう、原爆のせいじゃろうと言われて、否定することができん。そうじゃないと言い切れんからね。つらい思いをしましたということをお話す人もおるといふ、いわゆる風評被害。

これは、福島なんかでも気をつけんと、福島は放射能の影響で、福島の女の人と結婚せんほうがええぞ、人のうわさは、人は潜って言うからね、そんなことは科学的にないんだという認識をみんな持つことが必要だろう。

私もだから結婚をする前、昭和三十何年のとき、やっぱり悩みました。結婚できるんじゃろうか、してもええんじゃろうか。その頃に、資料館に来たときに、子供への影響はない、見解はA B C Cだった、そういう掲示板を見てほっとしましたね。やっぱり実際には被爆者はかなりみんな、おどおど、おどおどする。特に女性は大変だったろうと思います。

あと、原爆を落とす目標都市は、最終的に、初めは京都なんかも入ってたんです。ところが京都を猛反対した人がおる。スティムソンという国務長官、京

都を潰したらいいけん、歴史上、我々は言い訳ができません。結局、最終的に1番が広島、2番が小倉、3番が新潟、4番が長崎と決められました。2番目の小倉に飛んでいったとき、小倉は曇った。だから、目標地点が飛行機の上から確認できない。その飛行機はずっと長崎まで飛んで行って、長崎に2発目は落とすとする。

3番目の新潟はどうなったのか。これ、新潟の人でも知らんです。行って話すことがあって、いろいろ話した後、実は3番目の目標都市でしたよと言っても、ええ？って新潟の人は言われます。でも、歴史的にはちゃんと3番目と、目標地点、新潟、3番目で残るとる。そして、驚くべきは、新潟県知事は、広島、長崎に原爆が落とされた後、新潟市民を全員市内から退避させるとる、全部逃がしとる。だから、新潟市内は8月11、12、13、空っぽだった。これは、結果的に新潟に落とされずに戦争終わったが、私は新潟県知事は英断だったと思っています。どうしてその判断をしたかは、ちょっと調べても分からんということがあります。

私の被爆体験で、先ほどの写真で、私、それから3年生でしたが、姉。姉は3年生だから、疎開しなくちゃいけない。3、4、5、6は疎開です。疎開していました。どこにか、今の新庄高校という野球でちょっと強い学校がありますが、新庄に親類があって、その親類に預けられとった。それがあつて、広島に帰ってきて、8月6日に亡くなつてます。

B-29による空襲。東京は300機、死者が10万、負傷者100万と言われとる。我々は地面に穴を掘って、その中に隠れよつた、防空壕といひます。

8月6日の朝、これは8月6日の午前零時から2時ぐらひまで、8月6日の夜中ですね、空襲警報が出ますから、我々は防空壕に隠れてました。解除になつた。しばらく家に帰つて寝た。7時9分、午前7時9分、またサイレンが鳴つた。ウーですね。だから、また隠れた。そして7時31分、解除になつた。今度は緩やかに、ウー、警戒警報解除、警戒警報解除。そのとき出ていたのは警戒警報だつた、解除になつた。それで、私たちは学校に、正式には分散授業所に姉と一緒に、お母さんに見送られて出た。

そして、朝の掃除をしていた。結果的にバケツの水が汚れた。当時は雑巾がけしてましたから、どっちがバケツの水を替えに行くかで、結局、お姉さんが替えに行つてくれた。お姉さんが台所に入つていった、水道がある。私は残つて、玄関を拭き掃除していた。これが運命を分けました。

いわゆるエノラ・ゲイからリトルボーイと名前がつけられた原子爆弾が投下されます。相生橋を目がけて投下され、若干ずれて島病院の上で爆発。その瞬間、よく覚えてますが、まさにピカッと光つたんです。次の瞬間はドーンであ

ります。いわゆる「ピカドン」と我々は言いましたけれども、ピカッと来て、ドーンであります。家は一遍に潰れてきて、押し潰されます。真っ暗になります。真っ暗は多分、砂ぼこりか何かで光を遮ったんだろうと思います。いわゆるきのこ雲、周辺から見ると、広島の上空1万メートルぐらいまで上がったと言われている。私は逆に、この辺が爆心地、私は1.8キロ、この辺でドーンであります。

これはさっきも見た、厳しい写真です。ピカッを直接見た者は焼かれます。ケロイドがあります。爆心地、たくさんの、これは中学生でしょうね、被災を受けます。

私は、ドーンで潰れた家の柱の下にいました。これは運がよかったとしか言いようがないのだが、ちょうど柱と柱がテントの屋根のようになって守ってくれました。そうして何とか抜け出しました。このときは頑張りましたね。1年生、6歳でよう頑張ったと、いまだに自分に感謝してますが、必死になって柱の間をくぐって、くぐって、頭でこじ開け、壁土が赤土でしたわね、あの思い出を覚えています。その間をくぐって、くぐって、抜け穴、抜け出しました。

目の前にはたくさん、たくさんの人が、ぞろぞろ、ぞろぞろ、ぞろぞろ、ぞろぞろ、もう逃げてました。まさに何百メートルも続く列です。それに交じって、私も一生懸命、ついて逃げました。今だったら気持ちが悪くて、とても一緒には動けんでしょう。火傷しとる、骨は折れとる、血を流しとる。でも、やっぱりこのときは思わず、必死について逃げました。当然、はだしです、何も履いちゃおらん。

そして、川に出たときのことを覚えています。これは猿猴川、向かい側は白島という町、こちら側が二葉の里という町です。広島の方はお分かりになると思うが、白島という町も燃え出した。石段からは、まさに雪崩のようになって人が川へだっと下りてました、雪崩という言い方がいいと思います。そして、川原にはたくさんの人が避難してました。皆、けがをしています。川には、またこれがまたたくさんの人が死んで、流れてました。何が起こるとるか分からん。ただ、うわ、大変なことが起こるとというのは思いました。

そして、私はこちら側を一生懸命、ついて逃げました。山の上に逃げました。二葉山ですから、この辺りになります。ここが被災し、たったこれだけを逃げた次第ですが、山の上に逃げました。みんなについて逃げました。そうした頃になって、広島町がまさにごうごうと燃え出しました。それを見てました。

ここから後の記憶が、ちょっと途切れるんです。だから、これは9時半か10時ぐらい。ところが、この山を私が下りるのは夕方の5時か6時。その間、何をしとったのかな、思い出せないです。ただ、治療を受けたことは覚えとる。

血が出よった、流れよる、頭のほうに切り傷が当然ある。治療は赤チン、ヨードチンキをばっばっばっばと塗ってくれるだけは塗ってくれました。あとは処置なしという状況で夕方までおって、夕方になって、山を下りました。

逃げた場所に近所のおばさんがおりまして、近所のおばさんが一緒に逃げようと言ってくれまして、一緒に逃げました。そして、今の広島駅の裏の東練兵場にたどり着きました。広島駅の北側は一面の練兵場、原っぱです。そこにたくさん、たくさんの人が逃げてきてました。けがをしてます。やけどをしとる。うめきよる。今でもよく覚えてるのは、捜して歩いて、捜して歩いていく途中で、水をくれ、水をくれという声ですね、これはすごかった。あっちからもこっちからも、水を下さい、水をくれ、水をくれ、これは今でもよく覚えてますが、大変な状況でした。ある作家は、「まるで地獄の真ん中に立っていた」と言ってます。

そして、捜し、捜し、うろうろ、うろうろしとる。今だったら考えてみるが、見つかるわけがない。ところが、たまたま今度はまた近所の人に出会って「、おまえは梶矢のこの僕じゃろう、梶矢の息子じゃろう、お母さん、お父さんは生きとってじゃ。」うれしかったですね、生きとる。「じゃが、お母さんは大けがじゃ、早う行かにな、お母さん、死ぬるで。」その後、私、大泣きをしたそうです、うわっと。自分じゃ覚えとらん。ところが、その近所の人、「おまえは、お母さんが死ぬるで言うたら、泣いた、泣いた」と言うんですが、自分の記憶がないが、まあ泣いたでしょう。

そして、母親のそこへ行ってみると、もう血だらけでした。原爆のとき、熱線は大変。ところが、爆風でガラスが割れるんだ。ガラスが木っ端みじんに割れて、鉄砲の弾みたいにはばっと飛び散ってくる、防ぎようがない。だから、私の母親は、子供を分散授業所に見送って、家に入って、窓の近くでお裁縫仕事をしよった、ピカッ、ドーン、ガラスが木っ端みじんに割れたのが飛び散ってくる。何と50個、60個、刺さった。しかも1つは眼球にも刺さったから、そら、そうでしょう、防ぎようがない。眼球にも刺さって、私の母親は原爆後は、片方の目は見えないまんまで一生涯を過ごします。顔も傷だらけ。そら、ガラスがもうほっぺたとか何とかに突き刺さって、裂いてますからね、傷だらけ。

今でも覚えとるんだが、私も中学生になった頃、若干、異性を意識し出したときに、参観日に母親が来た。みんなが私の母親を指さして、「ありゃ誰のお母さんや、誰のお母さんや。」そりゃ、片方の目は潰れとる、もうほっぺたなんかは傷だらけ。私も若干、思春期で、だから「お母さん、来るな、来でんもええ」言うて、母親が悲しい顔をしたのを今でもね、ありゃ、すまんことをし

た、本当にお母さんにすまんことをしたと覚えとります。

このとき、母親はうめきよった。痛かったでしょうね。その前に、ありゃと思いましたが、姉が死んでました。即死です。だから、同じ分散授業所にて、バケツの水を替えに姉が行ってくれた、水道があるところ、家が潰れてきた、柱が直接姉の上に落ちかかって即死。友達も即死しています。むしろ、生き残った私のほうが、よほど幸運であったということになります。

さて、爆風、ガラス、これは大変です。だから、どうしたらええかといった場合、伏せと言うことがあります。伏せ、座布団でも毛布でもあったらかぶれ。ガラス被害は大変です。もちろん熱線も大変です。

姉が亡くなってましたがね、この姉の顔がね、少し私にはほほ笑んだように見えた。これは不思議で、不思議で、何でお姉さんが死ぬるときに、ほほ笑んだような顔ができたのか、なったのか、謎でした。

これは、原爆後の東練兵場の様子を（自分で）描いたものです。ただ、今また描き直しておりまして、それを見てもらおうと、今、このように描き直しております。基町高校の生徒にももちろん描いてもらいますが、どうも自分で描いて、下手であってもええわ、自分で記憶にあるものを描くわと思っているものの、1枚であります。広島駅の裏、東練兵場の8月6日の情景であります。

母親は、いつまでたっても8月6日が来たら泣いてました。「お母さん、ええかげんにせいや、幾ら泣いたって死んだ者が生き返ることがなかろうがい」と私も30になった頃かな、一応、仕事に就いて、一人前になった頃、母親があまりめそめそするんで、叱りつけたことがあります。

そうすると母親が言った話、いや、実はこういうことがあったんだというのを最後に付け加えておきます。姉は、さっき言ったように、小学生の3年以上は市内におることができんかった、疎開をしなくちゃいけなかった。それで、疎開、今の新庄高校があるすぐそばですけども、親類がありまして、そこに預けられとった。それで、ずっとおれば問題なかったんですがね、ところが母親が着替えを持っていった。母親の顔を見ると、「とにかく連れて帰ってください、連れて帰ってください。」私はお母さんと一緒にええ、一緒にええと言うて、もうほとんど恐らく寝とらんかったろうと。私のお母さんが寝る枕元で、ずっと「連れて帰ってくれ、連れて帰ってくれ」言うておったそうです。

母親はそれでも広島は危ない、いつ空襲に遭って、いつ爆弾が落ちてくるかわからん。ここ、田舎です、新庄、大朝町新庄は安全だから、ここにおれ。そら、母親にしてみれば、せっかく疎開させとる子供を連れて帰ったら、近所や私の父親からも怒られるだろう。何で連れて帰ったんだ。だから、母親がとにかく拒否した。駄目だ、広島に連れて帰るわけにはいかん。ここ、親類の家に

おれば安全だから、おりなさいと言いつけて、その晩も、帰るときも、駄目だ、駄目だ、駄目だ。

そして、母親がバスに乗って帰りかけると、何とそのバスを追っかけてきたそうです。当時のバスはガソリンじゃないです、もうガソリンはない、日本には。そら、飛行機で突っ込んでいくときも、戦艦大和が沖縄に行くときも、片道しかガソリンはない。だから、バスなんかには使えないわけがない、木炭です。だから、スピードが出んし、のろのろ、のろのろだったんかも分かりません。ちょっとここ、坂道にもなっていました、行ってみると。

そのバスを私の姉はずっと追っかけてきたそうです。一緒に連れて帰ってくれ、一緒に連れて帰ってくれでしょうね。それを見た母親は、運転手さんに、止めてください、バスを止めてください、止めてくださいと頼んだ。運転手さんも見とったんでしょかね、ミラーで、すぐ止めたそうです。そこに姉が追っかけてきて、連れて帰ってください、お母さんと一緒にええ、一緒にええと頼んだそうです。

それで、とうとう母親も分かったと、帰ろう、一緒に帰ろう、死ぬときは一緒に死のう言うて、あの姉を広島に連れて帰ってしまった。そして、4日後に本当に原爆に遭って、姉は死んだ。何かほほ笑んだような顔、ひよっとしたらこれかな。姉にしてみれば、一生懸命生きた。その年齢で、9歳という年齢で、お母さんと一緒にいたい、一緒にいたい、一緒にいたい、その思いは達した、原爆で死んだ。ひよっとしたら、それであのほほ笑んだような顔が出たかな、これは想像です、もう本人に聞くことなんかできやせん。ということがありました。

最後になりますが、これが広島市の地図です。いわゆる赤で囲んでいるところが半径2キロメートル、この部分がほぼ全滅、炎上しております。ところが今の核兵器は、今の核兵器の威力は、最初の研修のときに広島型の1万倍と言われまして、びっくりして質問したことがあります。ところが、今、資料館関係の見解では、大も小もあるが、平均して数千倍と言われていています。広島型の数千倍。

この図は、今度、裏返しして、これは広島型の100倍です。だから、もし今の核兵器が広島にドーン、半径2キロが全滅した。その100倍いうたら200キロが被災する可能性がある。半径200キロといたら、この赤の範囲です。もう隣の岡山、山口はもちろん、鳥取も島根も入る。四国4県も全部入る。九州も一部入る。100倍で。もし、今の核兵器が使われたら、一発でこれだけがあのときの広島と同じような状況に遭う。もう絶対に駄目だ、駄目だ、駄目だと思います。

しかも、いわゆる放射能、死の灰、この広がりを見ると、とてもじゃないが、広島、長崎で終わりにせにゃいけん。3度目が絶対使われることがあっちゃいけん。大変なことになるぞというのを私は話しているのであります。ましてや1,000倍になったら、大体1発で、あるいは2発で日本は住むことができんようになる。どこに行くか、隣の国に逃げていくか、隣の国は拒否します、被爆者。とてもじゃないが、もう想像するだけでも、これはいけないと思い、広島、長崎で終わり、3度目を許しちゃいけんと思っています。

最後にスライドを流していくと、これは8月9日、全国から、近くの県が多いですが、広島救済のために駆けつけています。原爆後の広島のマチの様子、ちょっと右隅に原爆ドームが写っております、この辺りでしょうね、これが原爆ドーム、一面の被災地であります。

ところが、原爆少年、サッカー魂。何と昭和22、23、24、25、4年間連続で広島県の高校が全国優勝してます。今は、広島県は出ていったら、大概1回戦で負けるけど。この原爆の後には4年連続、広島大学附属高校、国泰寺高校、修道高校、山陽高校と全国連続優勝です。どこからこんなエネルギーが出たのかなと思います。

そして、これは「ぎんのすず」という雑誌です。昭和21年から、約三、四年間、全国で月に150万部ぐらいの雑誌を発行してます。そのうち、東京や大阪が復興して印刷所ができると、広島は駄目になって潰れます。

広島カープが生まれたのは5年後、昭和25年であります。

人は生き残れるか、この辺りに動員されていた、今の中学1年生に当たる、これは女子高の学生。空を見てます、Bよ、Bよ、Bよ、Bが飛んでるよ、たくさんの方が見てます。次の瞬間、ピカッ、ドーンであります、ほとんど全滅しています。

これは一升瓶です。ピカッの熱線で溶けた、私の父親が、この平和公園の中にあつたお寺の墓の前で拾ってきたという、いわゆる熱線で溶けた一升瓶であります。

先ほど見せた、もし100倍とを考えても、これだけの範囲が壊滅します。もう3度目を絶対に許しちゃいけんのだ、どんなことがあってもという信念がだんだん強くなっていますし、そういうことを思いながら、やっぱり話していかなかちゃいけんかなと思っています。

広島に落ちた原子爆弾です。

被爆者たちの声、三たび許すまじ原爆を、三たび許すまじ原爆を。本当は我らのまちにですけども、やっぱり世界のまち、世界のどのまちにも3度目の原子爆弾、核兵器を許しちゃいけんという思いを私は持っておりますし、どうぞ、

皆さん方もそういう思いで語って、伝えていかれるのが大事かなと思っているところでもあります。

ちょっと過ぎましたが、どうもありがとうございました。

○司会

梶矢さん、ありがとうございました。

それでは、交流会に移らせていただきます。

○梶矢

このたびのオリンピックで、聖火ランナーになった被爆者は3人ぐらいじゃないかと思えます。長崎でお一人と、広島は2人ありました。三次の方、これは102歳だったと思えます。だから、実際に走るときには、もう走れないということで、一応、広島を走るときの被爆者は1人、私がラッキーにも聖火を運ぶことができましたんやけど。その聖火、ちょっと見てやってください。

○司会

触らせていただきます。

○梶矢

どうぞ、どうぞ。

○司会

意外と。

○梶矢

一応、だから願いは原爆、その火は絶対に駄目だ。しかし、人間は火を使いながら文化を発達させた。平和の火はつないでいなくちゃいけないぞという思いは持った。走らせてもらいました。これは、何ぼ触ってもちびるもんじゃないですから、置いときますので、持ってみたいと思われる方は、どうぞ持ってください。

あともう一つ、バッハ会長にも会うことができました。オリンピックの会長、バッハさんが平和公園に来られました。そのときに、一応、被爆者と話をしたいということがあったようで、私が運よくそうなったんですが、ただ、バッハ会長は資料館を、時間をかけて回られました。

私はやっぱり感心した。私の話なんかよりも、資料館を本当、一生懸命見られる。その姿を遠くで見とって、いや、これは大切なことだ、すごいと思いました。私の時間はだから短くなって、かえってほっとしたのですが。最後は例のグータッチで、グータッチをしながらバッハ会長をお別れすることがありました。

そういうことがあって、「生きとしゃいいことがあるな」というのが実感でありました。

○司会

こちらに置かせていただきます。

それでは、質問のある方、いらっしゃいますか。

○質問者

それでは一言だけ。

梶矢先生には、約40年前から教育現場で勤めるきっかけをつくっていただきまして、御指導いただきました。こうして梶矢先生から、おまえもそろそろ、わしの話をよく聞いて、手伝いをしろという声をいただき、誠に僭越ながらさせてもらっています。

今日もお話を久しぶりに伺いながら、びっくりしたんですが、まだ絵を描き改めていらっしゃるんですね。いや、これまでもこのコロナ禍もあって、なかなか証言活動できないので、一昨年、データ化をさせていただいたりしたんですが、さらに、またこうして絵を描く日々を送っておられるということ、改めて感銘を受けました。私では十分ではないですが、しっかりお手伝いさせていただければと思っています。

質問ではないですけど、本当に今、私がこうして教職を無事に終われたのは梶矢先生の御指導のおかげだなと、今、改めて思っている次第でございます。

すみません、質問ではないですが。

○梶矢

今、先生、先生言われまして恐縮ですが、一応、私は小学校の教員でした。小学校の教員で、今、御質問いただいた彼とは3回、同じ学校で勤めることがありました、というふうな縁があったんですね。

教えた子供の中に、原爆関係では美甘章子（みかもあきこ）という子がおります。これは「8時15分 ヒロシマ 父から娘へ」という映画にもなって、映画監督もしてたというので公開されてましたが、美甘章子は一応、担任をしました。わし、梶矢先生、原爆の話ししよったか、してましたよという話を、わし、授業のときにそんなこと言いやへんよと言うたんですが、いや、してましたと。どんな話や言うたら、姉の話をしとったらしい。お姉さんの、いわば非常に母親を求めて、求めて、求めて、田舎から、疎開から帰ってきて原爆で死んだ姉の話をしておられましたよと美甘章子は言ってました。ああ、しよったかいつて言うたんですがね。そんなこともありました。

今、質問をいただいた彼とは、いろんな学校、小学校、いろんなところを回りながら、何と偶然にも私がある学校へ行った、彼が後から来た。あるいは、彼がさきに行とった、私がその学校に行った。何と一生涯で3回も一緒になることがあった。皆さん、これからも彼をどうぞよろしく願いいたします。

○質問者

あまり……じゃなかったの、お世話になりました。

○司会

ありがとうございます。

ほかに。

○質問者

この絵はいつ頃描かれたものでしょうか。梶矢さんが描かれたんですか。

○梶矢

そうです。私が描きまして、いわゆる基町高校の生徒にも描いてもらっています。ただ、やっぱりうまいです、よく描いてくれてます。ただ、ちょっと自分が描いたほうを使おうかなと思って、今は自分が描いたほうを使っています。

○質問者

いつ頃、描かれたものなんでしょうか。

○梶矢

これは、私が被爆体験の話をし始めたのは、平成6年か7年ですから、もう25、6年前でしょうか。一緒に勤めとった学校の中で、先生方が子供たちに、やっぱり被爆体験の話をしてくれと先生方から声が出まして、見てみれば、1年生から6年生までおるんだ。こりゃ1年から6年まで話をしようと思ったら、かなりコツが要ります。校長先生の話って、一応、朝会で話します。大体5分か10分しか前の子供はもたん。5分か10分話したら、もう1年生、2年生はざわざわ、ざわざわ、ざわざわし出す。聞いちゃおらん、そら、しょうがない。じゃあ、絵を描く以外ないな。そのとき絵を描きましたから、一番最初はだから25、6年前に描いた絵であります。

そして、一番最近描いた絵は、先ほど見せたこの絵であります。この絵は、3日前ぐらいにやっと仕上げました。言葉を添えました、東練兵場、8月6日。今、いわゆる広島駅の北、あの一面がこういう情景でした。そして、その右側に東練兵場にいた作家の2人の言葉を書いています。

1人は今西祐行、「まるで地獄の真ん中に立っているようだった」、彼が書いてます。もう一つが、原 民喜の「コハ今後生きノビテコノ有様ヲツタヘヨト天ノ命ナランカ」、彼が手帳にメモ書きした、この東練兵場の情景を見て、この原 民喜、今西祐行がおったんです。彼らはそういう表現をしている。私は、絵をせめて描こうかというぐらいの気持ち。

一番最初は、ちょっと持ってきちょらんのじゃが、平成6年のときに子供たちに話すときに、それは600人ぐらい子供がおる。小さい絵では、後ろは見えやせんというんで、無理して大きなこういう絵にして、当時はまだスライドが

なかったもので、だからこういう大きな絵を描いて、我が学校の子供とはいえ、校長であろうが、何じゃろうが、嫌だったら聞きやしませんからね。だから絵を見せながら話した。

そして、幼稚園にも行くんです。幼稚園で大体、広島市内にある半分ぐらいの幼稚園に行く。これも絵がなかったらもたん。ところが幼稚園にも、やっぱり40分、50分、話すんです。聞いてくれます。ただし、その場合には絵を見せる。もう一つは、身ぶり手ぶりをつける。これは身ぶり手ぶりが重要で、B-29が飛んできた言うた場合には、ブーン、どこに落とそうかな、広島だ、ビューッ、こんなふうと言わんと、幼稚園にや、ちょっと時間、子供が聞きがついてこんですね。年齢が高くなれば絵を見せるだけ、年齢が低くなれば、当然、ブーン、B-29だ、B-29だ、どこに落とそうかな、あつこの橋だなんてね。ビューッ、ドーン、こういうふうにやらんと、ちょっと通用せんいうこと。6年生ぐらいになると、中学生になると、もっと平たんに話しても十分大丈夫ですがね、そんなことがあって絵を添えてます。

だから一番古いのは、だから25、6年前、一番新しいのは3日前、これになります。やっぱりやりながら、やりながら、あの絵もちょっと入れたいな、この絵もちょっと入れたいな思うたら、暇なときに描きます。パステルです。絵の具は面倒くさいですからね、油を使うて、筆で使うて、また筆を洗うて、云々くんぬん、面倒くさいです。パステル、クレパスみたいなものですね、これでやってます。というふうなことで、ありがとう。

○質問者

授業というか、学校の行事でお話しされてたんですか？

○司会

学校の授業でお話をされてたんですかね、その最初、絵を描かれてたとき。

○梶矢

絵を描くの？

○質問者

いや、描くのじゃなくて、学校で説明してたのは、授業の一環というか、行事の一環みたいなんでお話しされてたんですか？

○梶矢

これは、皆さんの、こちらのいわゆる伝承者研修ができたのは5、6年前だろうと思います。私たちが始めたのが26年前ですから、その20年間は学校の元教員として、つながりがある学校が呼べば、そこに行って話をするというのをずっと続けてました。

○質問者

もう退職された後？

○梶矢

そうそう。私は、やっぱり難しかったですよ、その頃は。本当、平和教育といったら、こういうことを言うちゃ、ちょっと問題があるかも分かんが、いわゆる被爆者が話すことができないのです。福山や三原の強い強い組合の人が来てから、日の丸の指導はこれだ、赤は血だ、それから中国や韓国に行って、こんなひどいことをしたんだ、日本人は駄目だというのがね、ずっと平和教育だって、うわっと思ひよったです。

実際に被爆体験者の話を広島市で話すようになったのは、私も一応、最後、教育委員会におったもので、教育委員会を辞めるときぐらいに、いや、そういう平和教育じゃなくて、原爆の体験をそのまま伝えていく、子供たちにあとは考えてもらう。いわゆる日の丸だ、君が代だ、云々だ、これじゃない平和教育をとというのが、平成13年、14年ぐらいからでしょうか。だから、ちょっと想像はできんだらう思うが、学校として大変な時代があったんです。卒業式に日の丸を掲げるか、君が代を歌うかって、毎日毎日、がっちゃんがっちゃん、がっちゃんがっちゃん、もうもめて、もめて、もめという時期が平成10年ぐらいまでありました。

今は、聞いてみたら、全然、学校の権限は校長にあることが明確になったもので、それまでは職員会議にあるということだから、職員が多数決で決めたのに、校長は反対するんかって、どんどんどん、首つった校長が3人ぐらいいてたもんね、そんな時期があった。今は、明確に最終権限は校長にあるということで、逆に言えば、職員会議があまり会議になつたらんという話も出とります。実際、行って、見たわけじゃないから、話で聞いた範囲じゃが、そんなことがあるようです。

広島市は、だからそういうふうな、変な言い方をすると、言うちゃ悪いが日教組のような平和教育じゃなくて、体験を伝える、体験を語って子供たちに、あとは子供たちがどう判断するか、心の中に何を残すかを大事にする、そういう平和教育にと言われとる。ただ、実際に外部からそういう人の話を聞くのは、1年間で1単位ぐらいよ。それぐらいで、そこに行って、皆さんも話をすれば話をするという。平和教育は別に違うカリキュラムを組んどって、ちゃんをつくってますかね。証言を聞くのは年に1回ぐらいでしょう。詳しいことはわしも、今、分かんないのじゃがね、そんなもんです。

○質問者

大人でも、やっぱり絵があったら分かりやすかったです。ありがとうございました。

○梶矢

特に年齢が低い子供に対しては、絵は要ります。それは、1年生とか幼稚園に行って、言葉だけでやろうと思ったら、とてもじゃないが、できません。幼稚園のときには、さっきも言ったように、B-29がウーッ、どこに落とそうかな、どこに落とそう、こんなことをやらんとね、そりゃちよつともたん。

学年が5年、6年、中学生になってくると、それはちゃんと言葉と、いわゆるこういうスライドで伝えることが十分できるだろうとは思ひ、ましてや今度、一般の人を相手にするときには、そんなスライドがはるかに効果があるという実感を持っています。

○司会

一応、伝承者とか証言者養成事業では、相手が小学6年生でも分かるような原稿を書くようにしてくださいとさせていただいています。幼稚園児に伝えるのは結構難しそうな、何を言っても言葉が分からんような感じがどうしても。

幼稚園児は「練兵場」とかじゃなく、本当にちょっとした言葉でも分からないことがありますよね。それ何？それ何？となってしまうようで。

○梶矢

本当、76年前は、今の状況を見たら、そうじゃなくても最近でも新しいビルができよる。その前は何じゃったかいの言うたら、なかなか思い出せませんね。その前に何があって、壊して、新しくビル建てよるんか、それさえ分からん。ましてや76年前の広島駅の裏、あるいは西練兵場、県庁やクレドやそのほか、市民病院なんかがあった、その辺りは原っぱだったんだ。なかなか想像が難しいが、原爆のときはそうでした。広島駅の裏が、本当、東練兵場という広い広い練兵場。

私の中学校は二葉中学校という中学校です。今もありますが、二葉中学校ができたときの最初の1年生、入学生が私でした、私たちでした。昭和26年、東練兵場の隅っこの隅っこのほうにできた中学校でした。今だったらビル街で、どこがどうだったか分からんけ、ただ、26年前はずっと田んぼの中を歩いて、夜遅く帰るときにゃ、カエルがゲロゲロ、ゲロゲロ、ゲロゲロ鳴きよった、広島駅の裏です。本当、70年たつと、イメージはつくりにくいだろうなとは思ひます。

○質問者

貴重なお話、ありがとうございました。

今日も言ってた、大変な時代に息子は平和教育をしていただきました。昭和47年生まれ、現在50前ですけど、小学校6年生のときに先生の担任に。

○司会

お子さんが担任されてた子。

○梶矢

担任？

○質問者

私ではない、息子です。息子が昭和47年生まれ、6年生のときに先生に担任になってもらって、夏休みの課題として平和教育、プリントを頂いたのを覚えております。先ほど大変な時期だったとお聞きして、そういう中でも、やはり自分が身の回りの体験を伝えようと思われてたのかなと今、思いました。ありがとうございました。

○梶矢

どうも、どうも、ありがとうございます。何をしよったか、今、思い出せませんが、ただ、一番最初の学校は広島駅の近くでした。2番目の学校は幟町小学校という学校でした。その学校の校長は歴史の中でいろいろ残る校長です。運動場をはだして歩いてました。もしガラスやくぎがあって一番最初にけがをするのは、子供じゃなく、わしじゃというふうな、そういう校長でした。

これは被爆者で、非常に皆衆の世話をした校長で、ちょっと変わった校長で、いろいろ批判をされよったけれども、その校長は信念を持っていましたね。そこじゃなくて。

○質問者

そこじゃない。

○梶矢

というようなことで、あっちやら、こっちやら、もう一遍小学校の教員をやるかと言われたら、もし聞かれたらやりますと、私は本当に思ってます。仕事はみんなそれぞれいいところがあると思うが、私は私なりに、どうも机についてやる仕事が苦手だったもんですから、一緒に遊べばいいんだという思いで、小学校の先生になりました。今でもよかったと思ってます。

ただ、面白いのは、テレビを見よったら、教え子が出てくるんですわ。例えば、テレビで出てくるのは大下容子がおりまして、大下容子、ワイドスクランブルですか、おお、大下が出とるわ、出とるわという、一応教えました。

そのほか、テレビ出るのは、前にもおったですが、今辞めたんが、ええ仕事しよるといいうのもおったりします。

NHKは朝、高瀬耕造君がおりまして、高瀬君。高瀬君と一緒にテニアン島へは彼と1週間、一緒に行って取材をしました。まだ、高瀬君が広島局におりまして、まだ若い駆け出しでした。そのとき、広島局は出山知樹というアナウ

ンサーがおりまして、出山さんが広島におる、高瀬君が私らと一緒にテニアン島に行って、サイパン島に行って、式典に参加する。それを高瀬君が取材する。

今は、NHKの朝の7時台に高瀬耕造です言うて出てくる。ああ、ええとこなったもんだなと思いますが、その一緒にいた頃はまだ本当、若い出だしぐらいで、何でもかんでも勉強です、勉強ですと言っておったですよ。だから高瀬君がおったり、大下容子がおったり、そのほか、おお、おお、元気で頑張りよるわいという、これが小学校の教員のよさじゃないかと思います。

それが中学校になってきたら、いろいろ今度、私立なんかで、地域の子供が分かれて行きますが、小学校の頃合いには地域の子供が入ってきますから、いろんなんが入ってくる。それを一生懸命、一緒に遊んだり、一緒に勉強したりというのを、私はだからよかった。満足、満足と自分では思っています。子供に言わせたら、え？と言うかも分かんませんが、そうですね、どうもありがとう。

○質問者

ありがとうございました。

○司会

もうお時間になってしまいましたので。

○梶矢

もう一つ、これは、この前のバツハさんが来られたときの写真です。バツハ会長がおられる。私はその横でしたね、手に何か持つとる、手に持っていました。バツハ会長からオリンピックマークをもらいまして、それを置くわけにはいかんから、バツハ会長が動けるたびに、こうやって一緒に持って、ついて歩きました。そういうことも7月はありました。

だから、今こうやって生き残つとるということだけで、ありがたいことじゃと自分じゃ思うとります。もうちいと頑張らせてもらえりゃなと思ったりもしています。

最初写った兄弟の写真のうち、今、生きとるのは私一人です。皆、兄貴も姉も、もう亡くなっています。生きとるうちに、ちょっとでも何かいいことができれば、やってみたいなと思っているところであります。

○司会

以上をもちまして質問の時間を終了させていただきます。それではいま一度、梶矢さんに拍手をお願いします。

梶矢さん、ありがとうございました。